

九州大学経営協議会議事録

日時：平成28年1月21日（木）13：00～15：00

場所：九州大学 椎木講堂大会議室

出席者：29名中26名出席

【審議事項等】

1 主幹教授の選定について

主幹教授制度の概要及び新たに7名の主幹教授を決定したことについて報告があった。

2 平成26年度に係る業務の実績に関する評価の結果について

文部科学省に置かれる国立大学法人評価委員会において示された平成26年度に係る業務の実績に関する評価の結果について報告があった。

なお、以下のような意見等があった。

- ・ 人社系の充実等が求められているが、社会科学の知識や哲学等も非常に重要である。これらのことを率先して検証して取り組んでいくべき。感情や価値観など、コンピュータでは対応できないことなども大事である。
- ・ 資料の最後のページで学生定員の未充足が指摘されているが実態はどうなっているのか。

指摘をされているのは専門職大学院で、4つの専攻のうち2つは定員を満たしているが、臨床心理が特に低くなっている。臨床心理については、応募者は多いが、高い水準を維持するために合格者が少なく充足率が低くなっている。今後、定員について適正な規模に減らす方向で見直すことを検討している。

3 平成28事業年度長期借入金の認可申請について

平成28事業年度の施設移転整備事業に必要な経費に係る長期借入金の認可申請を文部科学省に行うことについて説明があり、審議の結果、これを議決した。

なお、以下のような質疑応答があった。

- ・ 箱崎跡地の売却に向けての準備状況はどうなっているのか。

工学系の建物は順次解体中であり、歴史的な建造物は残して使っていただく方針としている。売却先の候補は14団体と聞いている。今後、福岡市や地域の方、協議会等との合意を図りながら協議を進め、福岡市の方で近隣の箱崎中学や貝塚公園なども含めた大きな再開発事業として都市計画を定め、最終的には入札となる。福岡市と協力しながら、経済団体等にもご理解いただきながらルール作りを進めている。

- ・ 資料p.2の書き方とp.4の支払期限等の書き方が違うがどういうことか。

p.2は銀行との契約のための説明資料、p.4は文科省への申請の書式であり、p.4の方には最長の場合で記載している。念のため、書式については再度よく確認した上で提出することとする。

4 第三期中期目標・中期計画（原案）等について

文科省へ提出する本学の第三期中期目標・中期計画原案及び戦略性が高く意欲的な中期

目標・中期計画について説明があり、審議の結果、意見を踏まえ内容的に反映できるところは修正等を行うこととした上で、これを議決した。

なお、以下のような意見等があった。

- ・日本のランキングがなぜ低いかということについて、海外の大学は人社系も評価が高いが、日本は理工系は高いが人社系の評価が極端に低い。九大も同じで、工学系・理学系は高い評価を受けており、100番以内に入るためには人社系に力を入れなければならない。そういった観点の計画が、例えばユニット6やユニット8に含まれているとよいと思う。

例えば学内の研究支援制度であるP&Pにおいて、「つばさプロジェクト」として人社系の若手研究者を中心とした異分野融合研究を支援することとしている。

アクションプランにおいて、人社系の再編・機能強化を重点取組に掲げており、総長の諮問機関である人社系WGにおいて、組織再編についても具体的に議論している。各部局からの話も聞き、今後、外部有識者の意見も聞きながら検討していくこととしており、人社系の強化に積極的に取り組んでいきたい。

- ・女性研究者を15%以上にするという目標はいいと思うが、増やすだけではなく、主幹教授のようなリーダー的な女性を増やしていく必要があると思う。現在、主幹教授に女性は1人しかいないようだが、主幹教授の就任基準は理工系を前提としているように感じられる。人文社会系教授に女性が多いようでもあるので、主幹教授の女性を増やすように基準を再検討してはどうか。
- ・主幹教授に経済学の教員が1人もいないのも問題ではないか。そういった観点でも基準を検討してはどうか。

ご意見を踏まえ、今後、主幹教授の資格の基準について検討していきたいと思う。

- ・人社系と言われているが、人文科学と社会科学は違って、特に人文学はマーケットが少ない。社会科学だけではなく人文系の改革をやっていく必要がある。例えば日本文学しかやらないところに外国人を入れていくなど思い切った改革をしていくことも重要。
- ・アクティブ・ラーナーの育成については、高校生の段階でそういうことをやってきた学生をピックアップしてきてさらに鍛えていくということも大事だと思う。主体的な学びを実践できる人材を選抜することにも取り組んでいただきたい。
- ・障害者支援で求められている合理的配慮の取組については積極的に進めて欲しい。

5 平成28年度予算の内示について

平成28年度の文部科学関係予算案、国立大学法人関係予算案及び本学の予算内示の概要について報告があった。

6 指定国立大学（仮称）について

文部科学省に置かれる有識者会議で検討されている指定国立大学（仮称）の検討状況について報告があった。

【懇談】

会議後、「九州大学の広報活動」について説明があった後、当該説明内容等に基づいて懇談を行った。

なお、以下のような意見等があった。

- ・取材件数が少ないと感じたが、これは教員に直接依頼があった件数は含まれていない

のか。

これは、広報室を通した取材のみで、教員が直接取材を受けた分は含まれていない。

また、病院は別途広報担当がおり、直接病院の方で対応している。

- ・ 広報を通すと時間がかかるという印象がある。取材したいときにすぐにアプローチできることが大事だと思う。
- ・ 大学教員の研究内容や学生の取組など、楽しいものも含めて大学の中にネタはたくさんあると思う。世の中が大学に求めるものや関心の持ち方は、大学の中での専門性の分類とは異なるので、分野を横断したネットワークを作っておくことが重要。また、それが学内共同研究のきっかけになればいいと思う。

【その他】

次回の経営協議会は平成28年3月17日（木）に開催予定である旨の案内があった。

（ 以 上 ）